

# 設楽原歴史資料館

# 写真集





木砲



伊予板二枚胴具足



## 戦乱の世を生き抜くために

室町幕府の力が弱まる中で、各地の戦国大名は激しい勢力争いを繰り返していました。東国の大名にとって、東三河は政治の中心地である京へ向かうための重要な地域でしたので、駿河の今川氏、甲斐の武田氏、三河の松平氏の間で争いが絶えませんでした。

このような中、長い間、三河の守護代として、野田にいた富永氏の勢力が衰えてくると、田峯の菅沼氏、長篠の菅沼氏、作手の奥平氏の山家三方衆や、野田の菅沼氏、川路の設楽氏、西郷の西郷氏の豊川三人衆は、豪族として勢力を伸ばし、諸大名の動きの中でその生き残りをかけていました。

身を守るため、時には人質を差し出し、時には一族兄弟が敵味方に分かれ戦うこともありました。

## 宇利城の戦い

享禄2年(1529)11月4日、松平清康は3千人余りの兵を率いて東三河を支配下に収めるため、岡崎を出発しました。

吉田、田原、牛久保、作手、田峯、野田、西郷などの城主は清康に従いましたが、宇利の熊谷氏はなかなか従うことがありませんでした。

野田の菅沼定則を案内役に、宇利に向かいました。城の正面(大手門)から松平親盛(清康の叔父)、裏門(搦手門)から松平信定(親盛の弟)が、攻撃を仕掛けました。宇利城は三方を山に囲まれた天然の要害で清康にとって苦しい戦いでしたが、城内にいた岩瀬庄右衛門が野田の菅沼氏と内通。城に火をつけたので、城主の熊谷氏は裏山伝いに落ちのびていきました。この戦いで城方370余名、松平方90名が死傷したと伝えられています。

## 野田城の戦い

遠江国三方原で徳川家康を破った武田信玄は、元亀4年(1573)1月、宇利峠を越えて、菅沼定盈の守る野田城を取り囲みました。

野田城を守る城兵は400人。約3万人の武田軍を相手によく耐えていました。あまりに堅固な城の守りに、武田軍は金掘人夫に地面を掘らせ、井戸の水を抜いてしまおうとしました。

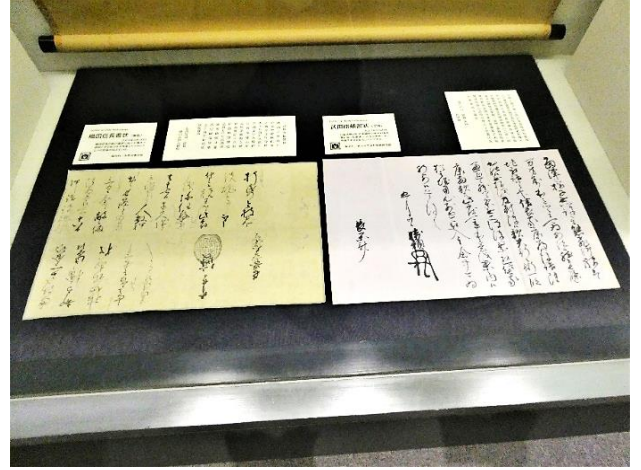
家康は野田城救援のため、旗頭山まで出陣しましたが、大軍の囲みを見て、救援が難しいことを悟り、吉田城に退いてしまいました。

1ヶ月におよぶ武田軍の激しい攻撃を耐えた定盈は、自らの命と引き替えに城兵の命を救うことを条件に開城。定盈は武田軍に捕らえられますが、人質交換によって再び野田城主として戻ることができました。





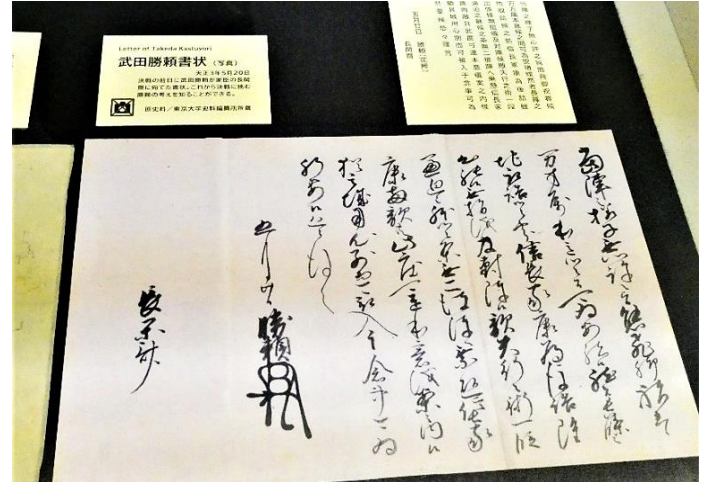
織田信長書状



武田勝頼書状



設楽原布陣図



馬防柵



野田城



影武者



# 岩瀬忠震



## 設楽原の 顕彰活動

忠震は岩瀬家に養子をし、江戸で暮らしました。設楽原の人々にとっては、いつになっても、川路城主設楽家の末孫、殿様の子でした。

### 忠震ゆかりの人々

明治の御一新で、設楽家は竹広陣屋を離れ、弾正貞普(忠震の弟)は、静岡県泉賀町に住んだ。

岩瀬家は、忠升が家を継いだ。子なく断絶した。

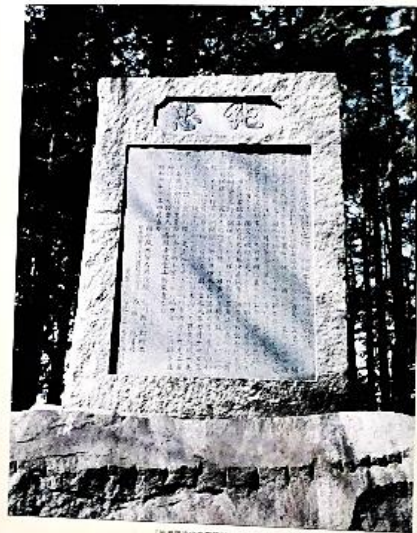
- ・ 明治42年 忠震50年忌追悼記念書画会(貞晋ほか)
- ・ 昭和30年 滝川家叢書第5輯「鷗所岩瀬忠震」刊行(滝川家-忠震生家設楽家の家老職)
- ・ 昭和35年 忠震百回忌の年、小野田孝「東郷ゆかりの岩瀬忠震公」を刊行

### 忠震顕彰会の設立

昭和60年、忠震ゆかりの人々、設楽原郷党諸氏によって「岩瀬肥後守忠震顕彰会」が発足した。以後忠震会の名で、顕彰・研究活動が続けられている。

- ・ 昭和61年 忠震顕彰碑を設楽原勝楽寺に建立
- ・ 平成元年 翻刻『地理全志』『温環表』研究
- ・ 平成5年 『芥舟宛忠震書簡注解(新城)』刊行
- ・ 平成6年 『左内宛忠震書簡注解』に着手

## 忠震8



「設楽原の忠震顕彰碑」

■設楽原の忠震顕彰碑の建立  
 昭和61年、忠震ゆかりの人々、設楽原郷党諸氏によって「岩瀬肥後守忠震顕彰会」が発足した。以後忠震会の名で、顕彰・研究活動が続けられている。その一環として、忠震ゆかりの地である設楽原に、忠震顕彰碑を建立することになった。この碑は、忠震ゆかりの地である設楽原に、忠震ゆかりの人々、設楽原郷党諸氏によって建立された。この碑は、忠震ゆかりの地である設楽原に、忠震ゆかりの人々、設楽原郷党諸氏によって建立された。この碑は、忠震ゆかりの地である設楽原に、忠震ゆかりの人々、設楽原郷党諸氏によって建立された。